

## 令和元年度 学校評価 生徒・保護者アンケート結果（10月実施）について

### 1 学校評価について

本校では、次のように学校評価を実施しています。

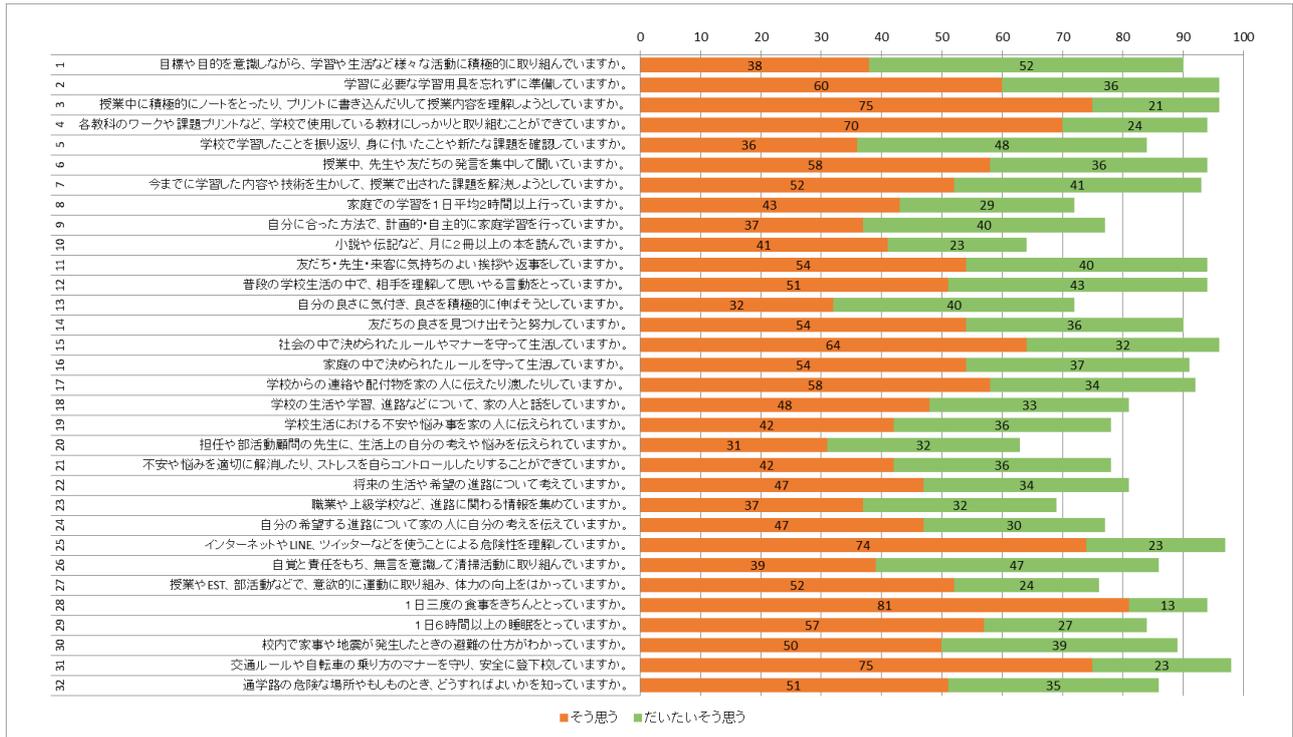
- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 生徒・保護者を対象とするアンケート調査を行う。</li><li>(2) アンケート集計結果や自由記述の内容を基に、教師による自己評価を行う。</li><li>(3) 教師による記述式の「反省と要望」という形式で、「次年度への改善と方針」を明らかにする。</li></ul> |
|--|

この資料では、(1) のアンケート結果と改善に向けての方針を示しました。

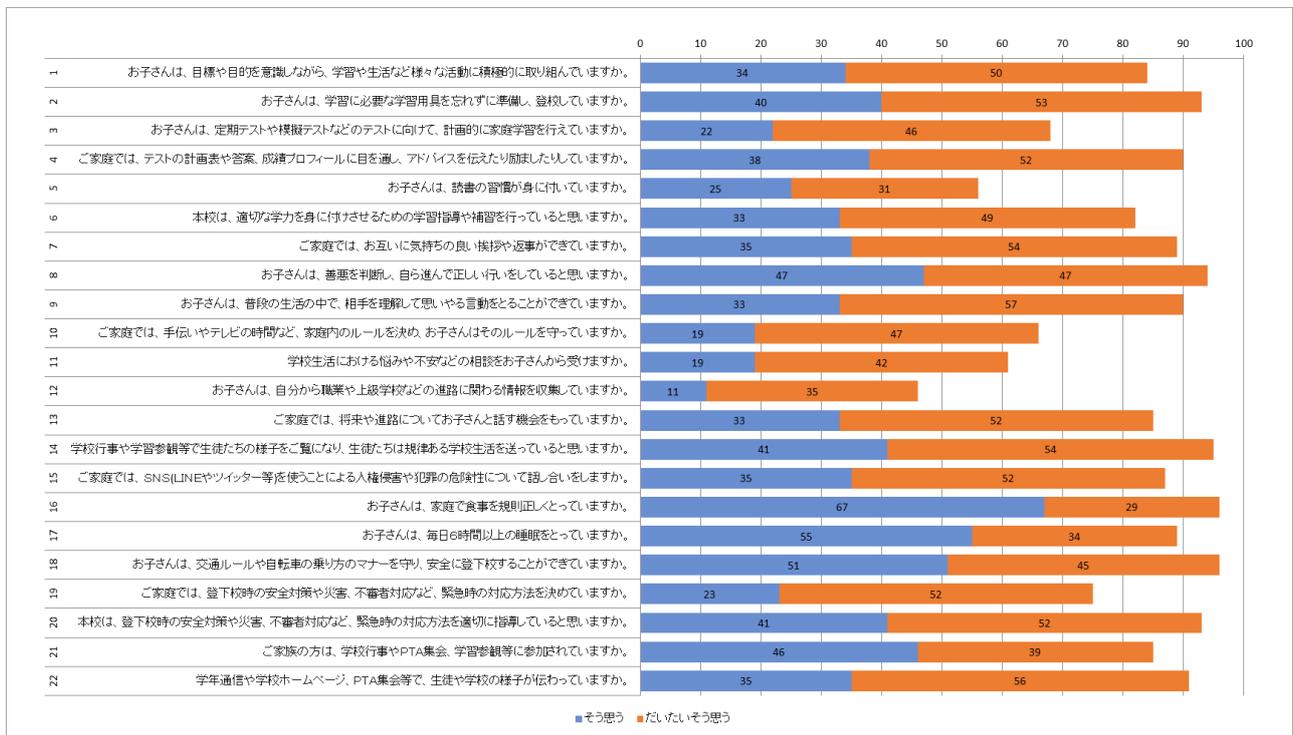
### 2 資料の見方

- (1) グラフの資料をご覧ください。アンケートの回答の「そう思う」・「だいたいそう思う」・「あまりそう思わない」・「そう思わない」・「わからない」のうち、「そう思う」・「だいたいそう思う」の合計の割合をグラフにしました。
- (2) 別紙の資料は、「そう思う」・「だいたいそう思う」の合計の割合が低かった項目（70%以下）について、＜生徒＞と＜保護者＞に分け、現状や改善に向けての方針、ご協力をお願いなどについてまとめています。

## 令和元年度第1回学校評価アンケート＜生徒＞10月実施



## 令和元年度第1回学校評価アンケート＜保護者＞10月実施



## 「思う」「だいたい思う」の合計の割合が低かった項目（70%以下）について

<生徒>

質問番号 10「小説や伝記など、月に2冊以上の本を読んでいますか。」 64%

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、5ポイント下降しました。本校では、毎朝10分間「朝読書の時間」を設けています。生徒の読書活動は、生徒が未来をたくましく切り拓くための活力の源となるものと考えます。今後も、図書委員会の活動を通して、図書室の新刊の紹介を行ったり、図書室の利用を促すガイダンスの充実を図ったりするとともに、教師自らが読書の素晴らしさを語る授業の充実を図りながら、生徒への読書啓発活動を継続していきます。

質問番号 20「担任や部活動顧問の先生に、生活上の自分の考えや悩みを伝えられていますか。」 63%

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、1ポイント上昇しました。本校では、今年度も定期教育相談を集中して行えるように日程を組み、一人一人の悩みに耳と心を傾け、相談する時間を確保しています。今後も、定期教育相談はもとより日々の生活記録ノート、道徳の時間や学級活動等の教育活動を通して、生徒との対話を重視し「受容」、「共感的理解」、「自己一致」の態度で接し、生徒の自己成長力を信頼し、支援する姿勢で臨んでまいります。

質問番号 23「職業や上級学校など、進路に関わる情報を集めていますか。」 69%

→昨年度同時期のアンケートと変わらない結果となりました。本校では、1年生で職場体験学習、2年生で上級学校、3年生で職業選択と高校進学をそれぞれ位置づけ、主に学級活動や道徳、総合的な学習の時間を使って学習を進めています。今後も、高校進学のみを目的とするのではなく、自己の生き方を見つめ、より良い生き方へとつながるような支援・指導を心がけてまいります。

<保護者>

質問番号 3「お子さんは、定期テストや模擬テストなどのテストに向けて、計画的に家庭学習を行えていますか。」 68%

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、2ポイント下降しました。本校では、定期テスト3週間前にテスト範囲を発表し、学習計画表をもとに自分で計画を立て、それに基づいてテスト勉強をするよう指導しております。定期テストを通して計画立てて進める学習習慣を身に付けることで、最終的には、「自分で課題を見つけ、自分で計画を立て、自分で学習を進めていく」という、理想的な学習へと近づけていきたいというねらいがあります。学級担任が定期的に確認をしていますが、お子さんが計画的に進められているかどうかをぜひ保護者の方にも確認していただき、より良い学習習慣が身に付きますようご協力をお願いします。

質問番号 5「お子さんは、読書の習慣が身に付いていますか。」 56%

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、1ポイント上昇しました。上記の生徒質問番号10にもあります通り、お子さんの読書量は下降傾向にあります。子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。ご家庭におかれましては、今後も、話題となっている本と一緒に読んだり、定期的に本を読む時間を設けたりするなど読書の習慣付けを図り、読書に対する興味や関心を引き出すような働きかけを行うよう引き続きお願いします。

質問番号 10「ご家庭では、手伝いやテレビの時間など、家庭内のルールを決め、お子さんはそのルールを守っていますか。」 66%

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、2ポイント下降しました。成長段階として、家庭でのルールを守ることに抵抗感がある年頃かもしれません。しかし、家庭のルールから始まり、学校のルール、社会のルールへと次第に広がるルールの中で生きていく力を身に付けなくてはなりません。ルール自体の大切さは理解できる、そして、理解すれば実行できる年齢でもあります。今その過程で、お子さんはもがいているのかもしれません。くり返しルールやその意義についてお子さんに話したり、とき

には成長段階に合わせて変えたりするなど、ご家族で話し合う時間をぜひお取りくださいますようお願いいたします。

**質問番号 11「学校生活における悩みや不安などの相談をお子さんから受けますか。」 61%**

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、6ポイント下降しました。生徒質問番号 19「学校生活における不安や悩み事を家の人に伝えられていますか。」では、78%の生徒が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答しています。生徒のアンケート結果に対して保護者の方のアンケート結果が低かった要因として、お子さんはこのアンケートを回答している方以外の家族にも悩みや不安を伝えているのではないのでしょうか。ご家族の中でお子さんの話を聞いてくれる役割の方が多いのではないかと考えられます。多くの方の目がお子さんに向けられていることに感謝申し上げます。今後も保護者の方とともに教職員もお子さんの学校生活での悩みを解決し、充実した教育活動が享受できるように努めてまいります。

**質問番号 12「お子さんは、自分から職業や上級学校などの進路に関わる情報を収集していますか。」 46%**

→昨年度同時期のアンケートと比較すると、5ポイント下降しました。保護者の方の実感は低いように見受けられますが、生徒質問番号 23「職業や上級学校など、進路に関わる情報を集めていますか。」で、69%の生徒が「そう思う」・「だいたいそう思う」と回答していることから、保護者の方とお子さんとの間に認識の差があるようです。中学生の発達段階の特性として、お子さん自身が把握している進路情報を親に伝えていないことが考えられます。将来に向けて、お子さんが自主的に進路を選択し、自分の生き方を考えながら自立することができるように見守りたいものです。ただし、見守るといってもお子さんに遠慮するのではなく、受容し、共感的理解を示しながらも親の思いや意見はしっかりと伝え、面談や家庭訪問、成績プロフィールへのコメントなどを機会として親子の対話をもつようお願いいたします。